

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270500640		
法人名	有限会社めぐみ		
事業所名	グループホームめぐみ荘		
所在地	〒856-0847長崎県大村市西部町495-7 (電話) 0957-48-5233		
評価機関名	特定非営利活動法人医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年3月4日

【情報提供票より】 (平成20年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤11人, 非常勤1人, 常勤換算11.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1～2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500～30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 50 円
	または1日当たり	850 円	

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	—名	要支援2	—名		
年齢	平均 87.4歳	最低	76歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中澤病院 吉原歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅地から少し入った一角にあり静かな環境に位置しています。立地的にホームに着くまでの道は一部狭いところもありますが、広い窓からの見晴らしはよく季節の移り変わりを感じる生活ができます。ホームは2ユニットありますが、一体的に運営されており、日頃からユニット間のご利用者・スタッフとも交流されています。日あたりの良い1階のリビングで過ごされているご利用者が多いようですが、ご本人の希望によって自室や戸外で思い思いに過ごされています。スタッフ間もコミュニケーションがよくとられており、必要に応じてすぐに情報を共有され最善の支援に尽くされています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) <b>改善に向け、評価の結果を活用されることを期待します。</b> 前回の外部評価結果をその後の支援に活用されるため、分析および改善計画を立てられたことは確認できませんでした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) <b>スタッフ全員で評価に取り組み、課題の共有に努められています。</b> 自己評価を日頃の業務を見直す良い機会と捉え、スタッフ全員で実施されています。質の向上を目指し自己評価の意義をきちんと理解し取り組まれています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) <b>開催頻度の充実が求められます。</b> 開催頻度については、概ね2ヶ月に一回の開催が求められます。今後は開催頻度の充実により、サービスの質の向上につながる積極的な意見交換が継続的に行われることを期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) <b>ご家族の意見を聴取する姿勢はうかがえます。</b> 意見箱が設置されており、ご家族の来所時には積極的に意見を聴取されることに努められています。しかし、来所の少ないご家族からのご意見の聞き取りについては、今後の課題と言えます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) <b>地域との交流をさらに深めたいと意欲をもたれています。</b> 地域の行事には積極的に参加されていますが、日常生活の中での交流の機会についてはさらに工夫をされることを期待します。

(別紙2-2)

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	心の介護、笑顔を中心掛け、「その人らしく」を原点に家庭の中での生活を感じられる支援を第一に思い、理念を作られています。	○	更なる取り組みとして地域密着型サービスの役割について理念に反映されることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各スタッフのネームカード裏に理念カードを入れて携帯し、いつでも理念を振り返ることができるように工夫されています。基本の思いを周知する有効で積極的な取り組みとして評価できます。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会などの地域の行事にも積極的に参加されています。職員のその日の配置によってはユニット間で協力し、できるだけ行事に参加できるよう工夫もされています。地元出身のご利用者もおられ、ご家族との交流の機会も多くもたれています。	○	地域との交流をさらに深めたいとホームも課題として捉えられています。外出にとらわれず、来訪のきっかけを事業所側が積極的にもつことで地域の方々との交流の機会をさらにもたれることを期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、その意義の理解の浸透と課題の共有化を目的に、スタッフ全員で取り組まれています。ただし、前回の外部評価の結果を有効に活用された様子は確認できません。	○	自己評価・外部評価の結果に基づく計画的な改善活動を期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の今年の開催は、まだ2回といった状況です。内容としては試食会の開催やホームを理解していただくための取り組み、外部評価の報告などが議事録で確認できます。	○	運営推進会議の開催頻度について見直すことが求められます。議題には参加者にホームへの意見を求めることも含めてホームのより活発な取り組みに反映されることを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務的なやりとりにとどまっており、サービスの質の向上に向けた連携を行っているという状況には至っていません。	○	地域の認知症を含む高齢者介護に関するサービスの向上に向けた市町村との協働などについて、市町村担当者とともに検討されるなどの取り組みを期待します。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「めぐみ荘だより」によってホームの様子は伝えられ、個別の状況などは面会時の口頭報告のみならず、文書での報告も開始されています。金銭管理の報告もなされていますが、内容確認を受けたサインは確認できませんでした。	○	金銭管理については、説明同意の痕跡が残るよう、ご家族等の署名や捺印などを台帳等に頂かれることを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスは玄関に設置されており、面会時にも意見等の聴取に努められています。聴き取られた意見に対しすぐに全スタッフで周知・協議され、返答もされている事例が確認できます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人員の確保が課題と捉えられており、極力スタッフ間のコミュニケーションに努められ、働きやすい環境づくりを心掛けられています。異動は今後の考えにはなく、退職・入職があった場合には、すみやかにご家族にも報告されています。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や資格取得希望者への情報提供は行われていますが、内・外部研修ともに開催・参加回数は少ない状況です。	○	日々の支援において確認しておきたいこと・深めたいことをテーマに内・外部研修ともに計画的に参加・実施されることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に参加されており、そこで得た情報はホームのスタッフも共有されています。また、年に2回、他のグループホームとの相互研修も実施され、サービスの質の向上を目指されています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学は随時受け入れられており、入居希望者の情報は入居予約表にまとめられて記録保管されています。また、入居前には必ずご本人やご家族の状況に応じた形で、ご本人を含めた関係者との面会が行われています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者を家族に近い存在ととらえ、喜怒哀楽を共にし、いつも相手の気持ちを互いに感じ合える関係づくりを心掛けられています。交流する中でご利用者からの感謝の言葉や労いの言葉に感謝しながら支援に努められています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の健康チェックと行動観察で通常と異なる行動に気づいたときはすぐに複数のスタッフで前後の状況を確認し、その場の思いの汲み取りに努められています。また、「介護への願いや要望」シートからの情報も日々の支援の参考とされています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者からの希望とミーティングでのスタッフの意見を基に介護計画が作成されています。ご家族からのご意見がある場合にはそのことも計画に盛り込まれています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの時期は定められておらず、日々の支援の中で変更すべきときはその都度会議をもたれています。変更事項についてはミーティングで周知されていますが、新たな計画書作成はされていません。	○	見直しの時期を設定され、定期的に確認されることが求められます。またご利用者の状況により計画を変更される際は、計画書の作り変えや追記をされることを期待します。
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望によって、ご姉妹宅への移動支援や買い物・通院などの支援も行われています。また、近くのデイサービス利用への移動支援も行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への通院支援が行われています。受診の結果は毎回ご家族へ電話で報告されており、毎月のめぐみ荘だよりと同封する形で文書での報告も行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針は作成されており、その同意書も受け取られていることが確認できます。しかし、ご利用者およびご家族の話し合いには至っておらず、意思の確認はこれからという状況です。	○	ホームの方針は書面にて伝えられていますが、ご利用者およびご家族の意向を確認されるには至っておりません。できるだけ早い時期に話し合われることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の入口にのれんをかけられたり、トイレや入浴の際にも羞恥心に配慮し支援されている様子が聴き取りにおいて確認できます。しかし、個人情報の利用目的や個人情報保護方針の整備については確認できません。	○	個人情報保護方針や利用目的などを整備され、スタッフへの周知活動やご家族への安心感へつながる取り組みを期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いつもご利用者の発言には耳を傾け、行動を注意深く観察しながら、できるだけ意向に沿った支援を心掛けられています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は1階ユニットで全員（2ユニット）分を調理され食されています。ご利用者が野菜の皮むきなどの下ごしらえに関わりを持たれる場面が見受けられ、食事の時間も急かすことなく、一人ひとりのペースを温かく見守りながら支援されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、基本的な曜日の設定はありますが、体調や希望に応じて柔軟な対応も行われています。浴槽は広く、気持ちよく入浴できる環境となっています。個別の入浴時の注意事項については申し送りで情報を共有されています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の会話や行動からご利用者のお好きなこと、得意なことを把握し、それを活かした役割や活動などの場面を設定されています。ご利用者の表情から張り合いや楽しさを感じられている様子が見受けられます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の状態や季節的な配慮のもと、散歩や買い物など、車椅子の方も含めて外出に向けた支援が行われています。ホームの庭からの眺めもよく気候のよいときには日向ぼっこもされています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面から玄関にはセンサーが設置されていますが、基本的には施錠されることなく、ご利用者の行動に寄り添い見守ることを基本に支援されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は昼夜想定で行われています。懐中電灯やラジオの準備はされていますが、非常食や飲料水の準備はなく備蓄が十分とは言いがたい状況にあります。	○	必要品の準備と地震や風水害などを含めた様々な災害対策を期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に量、形態などにも配慮されるとともに、毎食、摂取量を記録されており、健康状態把握のひとつの目安とされています。	○	献立については、定期的に栄養士などの専門家のチェックを受けられることを期待します。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の殆どは1階ユニットの共用スペースで過ごされています。ご利用者の様子を観察しながら、より居心地の良いように家具の配置を変えられたりと環境づくりを心掛けられています。大きく広い窓からは季節の移り変わりが楽しめます。掃除も隅々までよく行き届いています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みについて制限はなく、自由となっています。自宅の部屋と変わらないような環境を作られている方もおられます。また配置についてもご本人の希望に沿うように置かれています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。